

●ポスターセッション (P-その他-P-Q01~P-Q12)

担当ポスター発表 12 件は、分類が「その他」ということもあり内容が多岐にわたっていたが、主なものは LC-MS を用いた微量化学物質に関する発表であった。

P-Q01 は、太陽光発電や風力発電に伴う環境影響評価に関する韓国での研究を紹介したものである。代替エネルギーの促進・普及には住民の理解が不可欠であり、貴重な研究である。

P-Q02 の発表は、琵琶湖周辺に存在する 23 箇所の内湖の利水・排水構造やネットワークに関する報告であり、先人の水管理の歴史を知る上でも貴重な資料である。

P-Q3 から P-Q11 は LC/MS を用いた研究であった。人工甘味料のスクラロースの分析法開発 (P-Q03) と諏訪湖湖水調査 (P-Q06), 抗がん剤のカルボプラチンの分析法開発 (P-Q04), 防腐剤パラベンの人体への蓄積と排泄 (P-Q09) などは, PPCPs の汚染実態把握を行う上で貴重な報告であった。また, 農薬摂取後の消化を模したバイオアクセシビリティの研究 (P-Q05 及び P-Q08) は, 農薬の曝露量を把握するための基礎を提供するものである。これら以外に, 臭素系難燃剤に関する研究として, 降下煤塵中の PDBE の調査結果 (P-Q12) やプラスチックからの 3 種の難燃剤の溶出 (P-Q10) が報告された。これらの多くは, 今後も継続していくべき研究であり, さらなる進展に期待したい。

(北九州市立大・国際環境工 門上 希和夫)